

トルを歩くこととはかくつらくがま
んを強いられる。ふだん意識しない風
景、風や水は、登山を通してその直打
ちがわかる。頂上を征服した喜びとと
もに印象に残る体験となったようである。

(二) 各活動での創意工夫

○住まいづくりは、丈夫で住みやすさ
をねらいとして工夫された。竹の支柱
のどこをどのように結べば丈夫にでき
るか「玉結び」でゆわえたり、入口と
窓の位置や形を考えて、かやで編んだ
り、花や旗で飾ったりして、ねらいに
向けて工夫がみられた。

○お祭りの出店は、班の名物料理を考
えさせ、自分の出店に仲間がたくさん
食べに来るよう工夫させた。

どんな料理にするかを相談し、つく
る材料の買い物から、調理、盛り付け
後始末まで、各班とも創意工夫を働か
せ、お好み焼きやスパゲッティなどの
料理が出店に並べられた。料理の途中
では、限られた調理用具を工夫して使
い、ふだんでは使用しない方法を編み
出し、巧みに調理する姿がみられた。

(三) 交友関係の醸成

全く知らない仲間であったが、朝夕
五回の炊はん活動一つをみても、回を
重ねるにつれ、調理は女子、薪運びは
男子といった社会通念にとらわれず、
相互に協力し合い活動できた。また、
先輩後輩としてのことば遣いや接し方
になごやかな中にも規律ある態度がみ
られるようになり、リーダーの育成の
上からも、望ましい交流が図られた。

親子白銀のつどい

会津少年自然の家

一、事業の概要

このつどいは、「自然に親しむ親子
のつどい」第二部として開催されるも
ので、第一部夏の「親子キャンプのつ
どい」とともに、多くの参加者から好
評を博している冬のメイン事業である。

(一) 目的 親子でスキーを楽しむこと
を通し、親子のふれあいと他家族と
の交流を図り、よりよい人間関係を
育てる。

(二) 期日 一月下旬の㊤㊦の一泊二日

(三) 会場 当施設内の運動広場並びに
会津坂下町営スキー場

(四) 参加対象者 県内に在住する小・
中学生とその親または、親子グル
ープ(定員 一〇〇名)



親子いっしょのスキー教室

(五) 主な日程・内容 (表2)

(六) 諸経費 一人千六百円(食費、洗
濯代、写真代)他にリフト代

二、研修活動の実態と成果(前年度に
実施した状況)
(一) 参加人数 三十組の親子九十八名

表2 日程と内容

第1日目 (土曜日)	
① 14:30~15:00	開講式
② 15:00~16:30	スキー実技(広場) ・初級・中級・上級の技能別グループによる研修
③ 16:50~17:15	夕べのつどい ・国旗等の降納・夕べの話・ゲーム
④ 17:15~17:25	オリエンテーション ・生活のきまりの説明
⑤ 17:25~18:00	夕食
⑥ 18:30~19:30	映画のつどい ・スキー基礎講座「スキー教室」 (親子で考える芸術性のある映画)
⑦ 20:00~21:30	入浴・自由交歓
⑧ 21:30	消灯・就寝
第2日目 (日曜日)	
① ~6:30	起床・洗面
② 7:10~7:20	朝のつどい ・国旗の掲揚・ラジオ体操
③ 7:30~7:50	清掃
④ 7:50~8:30	朝食
⑤ 9:30~11:30	スキー実技(スキー場)
⑥ 13:30~13:50	閉講式

(一) スキー実技 初級・中級・上級と十名に一名の講師がつき、直滑降・斜滑降・プルーク・プルークボーゲンなど能力に応じて実施した。

(二) 映画のつどい 人間の生き方を示唆する内容の映画を上映し、親と子で感動を語り合う場とした。

(三) 成果 公認指導員の懇切丁寧な指導により、参加者がスキーの楽しさを体験できたこと。また、他家族との交流も深められ、社会性の伸長に役立ったことなどがあげられる。

(四) 参加者の感想

① スキーの初体験の親(郡山市) 「家族四人で転び合っては、顔を見合せて笑いました。世代を越えて感動を共にしたことが最大の収穫でした」

② スキーベテランの祖父(三島町) 「小学生の孫と一緒に、好きなスキーが出来てうれしい。これから何年もスキーを楽しんでみたい」

おわりに
今、少年たちに真に必要な教育のあり方が求められています。特に、豊かな自然とのふれ合い、他者とのふれ合い、生活にかかわる勤労や規律など集団宿泊を通して直接体験をさせることが青少年の健全な発達のために欠くことができないものであり今後とも各施設における各種事業の充実に努めていきたいと考えます。